

Discover!

未来は、待つのじゃない。
見つけにいくものだ。
建設業界で始める、
未来への第一歩。

みんなの建設業 ナビゲーション

未来を築き、社会を支える
企画制作：事業委員会広報研修部会

建設業の魅力や現場で働く先輩社員
インタビュー等、さまざまなコンテンツを
用意しています。ぜひご覧ください。

<サイトトップ><https://minken.ne.jp/>



建設業を知る
p01-02



人を知る
p03-04



働き方を知る
p05-06

一般社団法人 **東京建設業協会**
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-8-5
TEL. 03-3552-5656(代) FAX. 03-3555-2170



まちこ
東京建設業協会
オリジナルキャラクター





建設業を知る

人が使う空間をつくる「建築」。街の基盤をつくる「土木」。
建設業は、この二つの分野が連携して社会を支えています。

詳しくはコチラ



建築

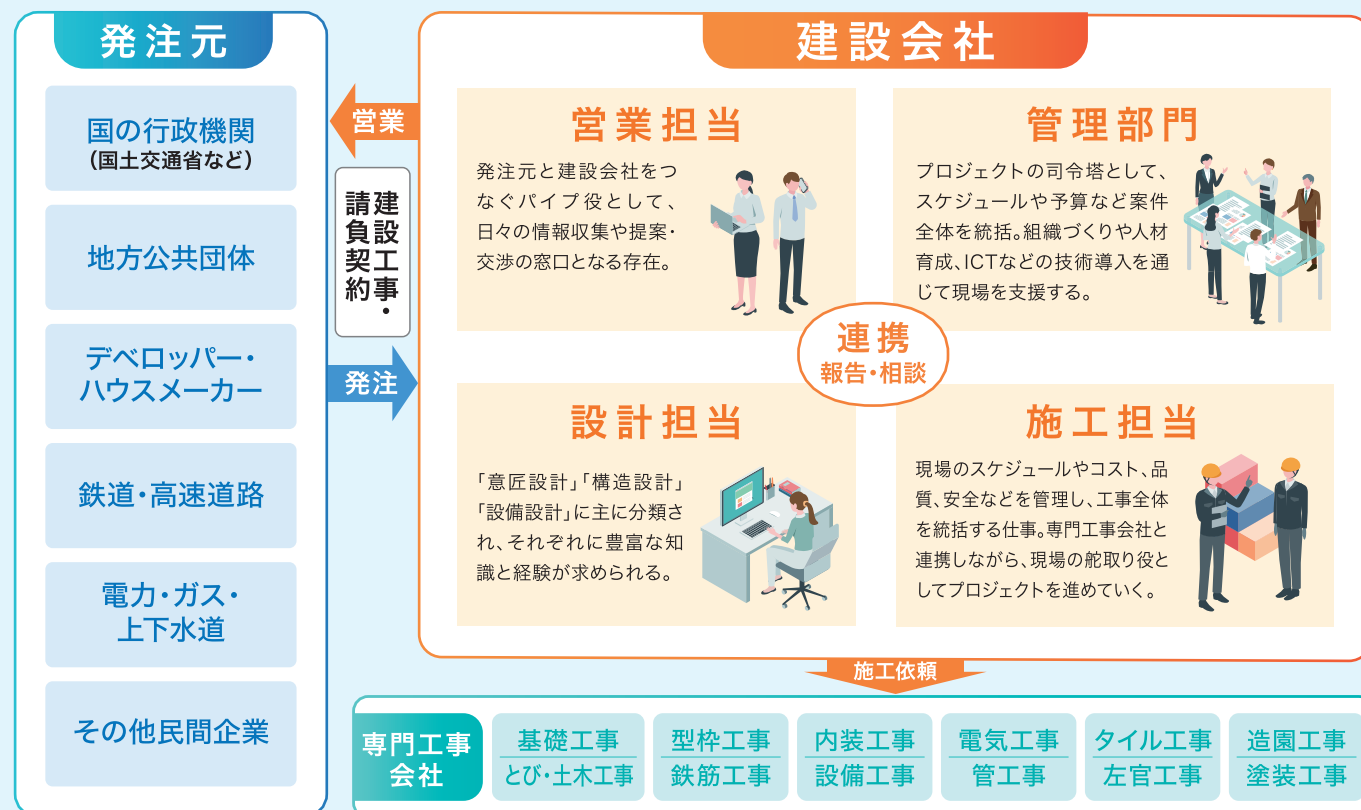
あらゆる「建物」をつくる仕事です。建物は人々の暮らしや仕事、学び、集う場など、さまざまな活動の舞台となるため、安全性はもちろん、快適性や機能性、美しさも求められます。設計から施工まで多くの人と関わりながら、一つの建物を形にしていく過程にはさまざまな工夫と責任が伴います。地域や社会のニーズに応え、人々の暮らしを支える使命感のある仕事です。

土木

生活に欠かせない社会インフラをつくる仕事です。人々が安全に移動し、暮らしを営み、産業を発展させていくための基盤を築きます。見えなくても社会を支える「縁の下の力持ち」であり、完成後の構造物は何十年も地域の暮らしに貢献し続けます。規模の大きいプロジェクトも多く、街や地域の未来をつくるというスケールの大きなやりがい魅力です。



仕事の相関図



活躍する最新技術

建設業は、最先端テクノロジーの舞台へ

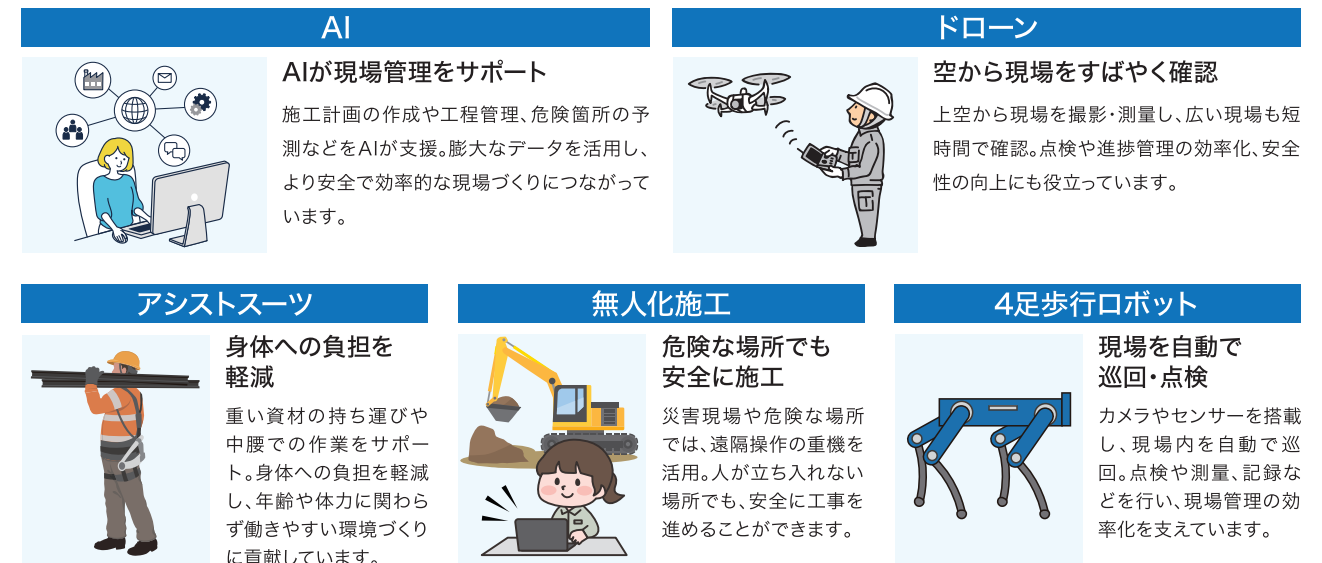
活用事例はコチラ



「建設業」と聞くと、重機を操作したり、体力が必要な仕事をイメージする人も多いかもしれません。

しかし現在の建設現場では、ロボットやAI、ドローンなどの最新技術が活躍しています。

少子高齢化による担い手不足への対応や、安全性・生産性の向上を目的として、建設業界ではデジタル化・自動化が急速に進んでいます。人が行っていた作業をロボットがサポートし、建設技術者はデータを活用しながら現場全体を管理する役割へと進化しています。



災害支援

災害の現場で、社会を取り戻す。

詳しくはコチラ



地震や豪雨などの災害が発生したとき、建設会社は被災地の復旧・復興を支える重要な役割を担います。

道路や鉄道の復旧、がれきの撤去、インフラの再建など、建設業の技術と力は、社会を取り戻すために欠かせないものです。

能登半島地震の災害復旧

2024年の能登半島地震やその後の豪雨災害では、建設業協会の会員企業をはじめとする建設会社が被災地の復旧作業に参加。道路の確保やインフラの応急復旧など、地域の生活を支える活動が行われました。

孤立集落を繋ぐ道路啓開や河川の護岸崩壊の復旧では、「被災者の生活を一刻も早く取り戻す」という強い使命感が原動力でした。崩落土砂が残る狭い現場での作業は困難を極めましたが、現場ではドローンを用いた地形測量や3次元データを活用し、安全かつ迅速な施工を実現しました。建設業の確かな技術力と、進化するデジタルツールの融合が、今後の災害支援の要になると確信しています。



豪雨により崩れた河川護岸の復旧工事を6日で完了



五洋建設株式会社 提供



人を知る

役割も経験も違う人たちが、
一つの現場に集まる。建設業は、人と人の力で
完成へと進んでいく仕事です。

私たちの
インタビューはコチラ！



若手社員インタビュー



土木施工管理 石川 奈生さん
2022年入社

飛び込んでみてわかった、現場の本当の魅力。

仕事内容について教えてください。

現場にもよりますが、安全管理・出来形管理・工程管理を主にしています。去年くらいから施工の計画もやるようになりました。今の現場では、測量や写真撮影が仕事量としては多いかと思っています。

やりがいを感じた瞬間は？

作業内容の大小関係なく、自分が計画したものや職人さんたちと相談して考えてきた作業が、工程通りに終わって、形になった時にやりがいを感じると思います。

挑戦したことや、働いてみて感じたギャップがあれば教えてください。

私の性格的に苦じゃなかったというものもありますが、現場の職人さんたちは長期間一緒の人たちにも自分から接していったのは一つの挑戦かなと思います。ギャップにもつながりますが、怖そうなイメージを現場配属までもっていただけ、話しかけてみるとみんな面白くて優しくて怖いという印象は全くなくなりました。

ある1日の流れ

8:00 出社
10:00 現場巡視
12:00 昼休み
13:00 現場巡視
15:00 測量・位置出し
17:00 内業～退社

仲間に支えられ、現場で成長する。

仕事内容について教えてください。

現在は、高層棟の地下・低層階における躯体工事を担当しており、主に鉄筋工事の施工管理を行っています。構造に関する確認や仮設計画の調整など、現場が円滑に進むよう関係者と連携しながら業務を進めています。また、新入社員のOJT担当として、後輩の指導や育成にも携わっています。

この会社を選んだきっかけは？

インターンシップで社員の方と話した際に、明るく話しやすい方が多く、「この会社なら安心して働けそうだ」と感じたことが一番の決め手でした。また、病院や学校、再開発など幅広い建築プロジェクトに強みを持っている会社だったことも魅力で、自分もさまざまな建築に携わりたいと思い入社を決めました。

やりがいを感じた瞬間は？

担当している工事が工程通りに進んだときや、現場で問題が起きても職長や職人さんと相談しながら解決し、無事に工事を進められたときにやりがいを感じます。また、職人さんや先輩、上司から「ありがとう」「期待しているよ」と声をかけてもらえると、自分の仕事が認められたようで嬉しく、もっと頑張ろうという気持ちになります。



建築施工管理 切畑 寛大さん
2022年入社

ある1日の流れ

8:00 出社
現場巡視
10:00 事務作業・打合せ
11:00 職長工程打合せ
12:00 昼休み
13:00 現場巡視
14:00 打合せ
15:00 事務作業
17:00 現場巡視～退社

女性社員座談会

Crosstalk

さまざまな会社・キャリアで働く女性社員に、
実際に働いている実感を通して語ってもらいました。



監督補佐
2023年入社

建築施工管理
2026年入社

建築施工管理
2022年入社

事務職
2026年入社



実際に働いてみて感じた 入社前後のギャップはありますか？



正直、大きなギャップはありませんでした。入社前から「残業はある」と聞いていましたし、働き方改革も進んでいると聞いていたので、ある程度イメージはできていました。今は2現場目なのですが、入社してからずっと同じ所長、同じメンバーと仕事をしていて、残業も他の現場と比べて特別多いわけではありません。それに、職人さんも本当に優しい方ばかりなので、「建設業って怖そう」というイメージとは違いました。「辞めたい」と思うようなギャップはなかったですね。



私は事務職として入社したのですが、
一番驚いたのは数字の大きさです。
金額もそうだし、扱う案件の規模も今までとは桁が違って、最初は驚きました。ただ、建設業そのものに対して想像していたイメージとのギャップは特になかったですね。



私は建設業というと、職人さんが怖いイメージを持っています。怒鳴られたり、「あっち行け！」と言われていたりするのになって(笑)。でも**実際に働いてみると、皆さん本当に優しく、気さくに話しかけてくださる方ばかりでした。**そこは良い意味で一番ギャップを感じたところですね。



私は総合職として入社したので、最初は事務の仕事が中心だと思っていました。でも実際には、ガス工事の図面を作成したり、工事の最初から最後まで関わる仕事を任せてもらっています。現場へ行く機会もありますし、監督さんや施工部の方と話すことも多いので、想像していた以上に工事に携わっています。**工事の内容も少しずつ理解できるようになってきて、「入社してよかったな」「楽しいな」と感じています。**

職場の雰囲気について教えてください。



私の現場は社員が4人で、所長と4年目の先輩、2年目の先輩、そして私という体制です。**まだ入社して間もないので分からないことばかりですが、皆さん本当に優しく教えてくださいます。**仕事が終わった後に雑談をすることもあり、とても動きやすい雰囲気ですね。施工管理の女性は私一人ですが、忙しい時はタイミングを見ながら「ここだけ教えてください」と声を掛けると、何度同じことを聞いても丁寧に教えていただけます。



逆に怒られたことはありますか？
怒られたというほどではないのですが…。一度、現場で鉄筋をまたいで近道しようとしたことがあって(笑)。その時は所長から「面倒でもちゃんと降りて行こう。危ないから」と注意を受けました。**安全面については特にしっかり教えていただいています。**



私は本社勤務で、フロアには部長や課長など管理職の方が多くいます。直属の上司は女性の係長で、そのほかにも同期や女性の後輩、20年以上勤務されているベテラン社員がいます。実際の業務では外注スタッフの方から教えていただくことも多く、皆さんとても親切です。入社前は管理職の方が多い職場に少し緊張していましたが、実際はとても気さくな方ばかりです。お菓子をくださったり、「今日も頑張ってるね」と声を掛けてくださったり、書類を持って行った時も優しく対応してくださるので、**とても話しかけやすいですね。**



直属の係長とはどんな関係ですか？
何かあればすぐ相談できます。悩んだ時には1対1でじっくり話を聞いてくださることもありますし、本当に面倒見の良い上司です。**職場環境にはとても恵まれていると感じています。**

詳しくはコチラ



先輩たちのリアルな声、まだまだあります。
続きはHPへGO！





働き方を知る

経験を積み、役割が変わる。働き方も少しずつ変わっていく。
建設業には、長く働き続けるための道筋がある。

詳しくはコチラ



建設業界キャリアパス

就職にあたって誰もが思い描くのが、その会社に入社して働く自分の将来像。

5年後、10年後、さらには20年後、どんな職場で、どんな役割を果たしているのか？

なかなか想像が難しい将来の姿をイメージできるよう、

モデルケースを紹介します。

20代
現場担当/一般社員

多くの知識・経験が求められる建設業界では、入社当初の5～10年は育成期間。できるだけ多様な経験を積めるよう、多くの会社がジョブローテーションを設定しています。

30代
現場主任/係長

入社から10年近くを経る頃には、複数の現場で経験を積み重ねるとともに、必要な資格も取得し、上司や先輩に動かされる立場から、多くの人を動かす立場へと脱皮。知識やノウハウに加えて、周囲とのコミュニケーション力や信頼性も問われます。

40代
現場所長/課長

多くの現場を経験し、管理職としての役割が本格化する年代です。現場のリーダーとして若手・中堅社員の指導や育成にも力を注ぐほか、会社全体の事業方針や利益にも関わる判断が求められる場面が増えていきます。広い視野と的確な意思決定が不可欠なステージです。

50代
統括所長/部長

組織の中枢を占めるポジションに就き、会社や業界、それらを取り巻く社会を俯瞰的に見つめながら、さらなる成長や課題解決に向けた方針・戦略づくりに取り組みます。これまでとは段違いの重責を負いますが、得られる充実感・達成感も大きなものがあります。

先輩のこれまでの歩み

ベテラン現場所長

土木施工管理 仁科 明大さん 2004年入社



印象に残っている仕事は？

入社後最初に配属された地下鉄工事の現場です。工事のスケールや社会インフラを担う責任の大きさに戸惑いながらも、職人さんや先輩社員等の支えのおかげで、何とか完成までやり遂げることができました。この経験を通じて、人々の生活を支える大切な仕事に携わっていることを実感するとともに、社会に価値を提供するものづくりのプロとしての責任と使命感が芽生えました。私にとって、技術者としての原点となる現場です。

成長を感じた瞬間は？

建設工事には、発注者や協力会社、作業所のメンバーなど多くの関係者が携わっており、それぞれに異なる立場や考え方があります。かつては、自分の立場や目の前の課題解決に意識が向きがちでしたが、経験を重ねるなかで、関係者それぞれの思いや背景を踏まえて物事を考えるようになりました。現在も、目先の判断だけにとらわれず、より広い視野で最善の選択ができるよう努めています。

私のインタビューはコチラ！



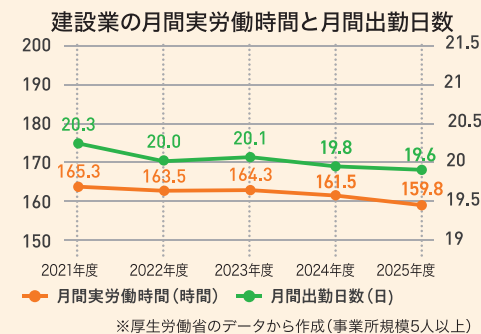
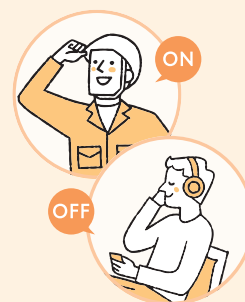
ワークライフバランス

建設業界では今、働き方改革によって職場環境が大きく変わり始めています。

労働時間の改善や待遇の向上、育児休業の取得促進など、仕事と暮らしを両立しながら働ける環境づくりが進んでいます。

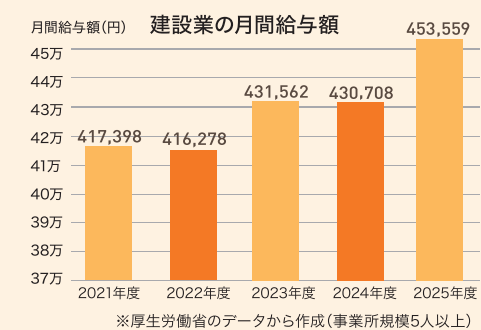
無理のない働き方へ

建設業界では、働き方改革の推進により労働環境の改善が進んでいます。**長時間労働の是正や休日確保の取り組み**が進められており、ICTの活用や業務の効率化によって現場の生産性向上も図られています。誰もが安心して働き続けられる環境づくりが広がっています。



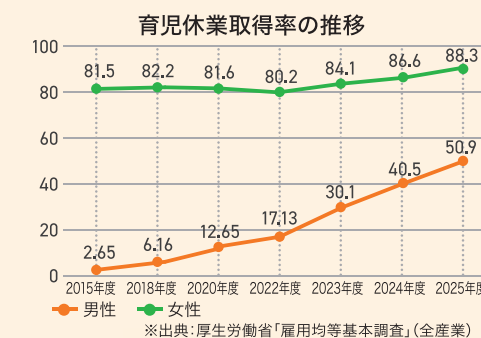
給与水準も上昇

建設業界では、担い手確保や人材育成の重要性が高まる中で、待遇改善に向けた取り組みが進められています。**技能や経験を正當に評価する仕組み**づくりが進み、**給与水準も上昇傾向**にあります。技術者が将来に希望を持って働ける環境が整いつつあります。



育児休業の取得も広がる

子育てと仕事の両立を支える制度整備が進み、**育児休業の取得率は男女ともに年々上昇**しています。育児とキャリアを両立できる社会づくりが広がる中で、建設業界でも働きやすい環境づくりが進められています。ライフステージに合わせて働き続けられる環境が整いつつあります。



育児休業取得者インタビュー

育休取得前に不安だったことや、実際に取得して感じたことを教えてください

育児休業という長期間のブランクや生活環境の変化によって、「以前のように働けるだろうか」「同期との差が生まれてしまうのではないか」といった不安や焦りがありました。しかし、実際に取得してみると、仕事ももちろん大切ですが、育児休業は「子どもの成長を間近で見守ることができる二度とない貴重な時間」だと感じました。そのため、男女を問わず積極的に取得すべきだと思います。復帰後は、子育ての大切さに気づいたことで、取得前に抱いていた不安や焦りも自然と解消されました。

復帰後の働き方や、仕事と育児を両立するために工夫していることはありますか

子どもの送迎があるため就業時間に制約があり、育児休業取得前のように早朝出勤や残業をしたり、急な対応で現場に駆けつけたりといった施工管理業務に従事することは難しくなりました。しかし、施工管理の経験は現在の業務に大変活かされていると感じます。限られた時間の中で業務を進める必要があるため、仕事の優先順位や効率を以前にも増して意識するようになりました。「完璧」を求めすぎず、「巧遅は拙速に如かず」の考え方を大切にしながら、まずは前に進めて形にすることを重視しています。業務の区切りがつかない場合には、子どもが寝た後に作業を再開することもあります。



白鳥 良子さん 土木施工管理

2019年入社
学生時代は永久凍土の研究に組み込む育児休業を経て、現在は仕事と育児を両立しながら活躍中

私のインタビューはコチラ！

